



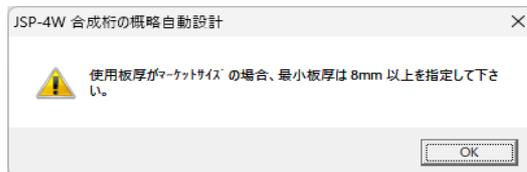
(2) 鋼桁の最小腹板厚変更への対応

II編 5.5 鋼桁

5.5.3.2 腹板の板厚 表-5.5.1 鋼桁の最小腹板厚

		鋼種					
		SS400 SM400 SMA400W	SM490	SM490Y SM520 SMA490W	SBHS400 SBHS400W	SM570 SMA570W	SBHS500 SBHS500W
直線桁	水平補剛材のないとき	$\frac{b}{152}$ 152	$\frac{b}{131}$ 131	$\frac{b}{124}$ 124	$\frac{b}{117}$ 117	$\frac{b}{110}$ 110	$\frac{b}{107}$ 107
	水平補剛材を用いるとき	$\frac{b}{256}$ 256	$\frac{b}{243}$ 243	$\frac{b}{229}$ 229	$\frac{b}{216}$ 216	$\frac{b}{204}$ 204	$\frac{b}{198}$ 198
それ以外	水平補剛材のないとき	$\frac{b}{152}$ 152	$\frac{b}{131}$ 131	$\frac{b}{124}$ 124	$\frac{b}{117}$ 117	$\frac{b}{110}$ 110	$\frac{b}{107}$ 107
	水平補剛材を用いるとき	$\frac{b}{256}$ 256	$\frac{b}{221}$ 221	$\frac{b}{208}$ 208	$\frac{b}{196}$ 196	$\frac{b}{185}$ 185	$\frac{b}{180}$ 180

ここに、 $b$ : 上下両フランジの純間隔 (mm)



鋼桁の最小腹板厚規定に準じて判定

(3) 床版のコンクリートの制限値 ( $\sigma_{ck}=35,40$ ) の追加 ※JSP-4Wのみ

II編 11.7.6 コンクリート系床版を有する鋼桁の限界状態 1

11.7.6.2 床版 表-11.7.2 コンクリートの圧縮応力度の制限値(N/mm<sup>2</sup>)

作用の組合せ		コンクリート設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )			
		27	30	35	40
1	永続又は変動作用が支配的な状況 1) 床版としての作用 2) 主桁の断面の一部としての作用 3) 1)と2)を同時に考慮した場合	10.0	11.0	13.0	13.0
		14.5	16.0	18.5	18.5
		14.5	16.0	18.5	18.5
2	偶発作用が支配的な状況 1) 主桁の断面の一部としての作用	14.5	16.0	18.5	18.5
3	プレストレッシング直後	13.0	14.5	16.5	16.5

※  $\sigma_{ck}$  規定値間は直線補間